

<豊中市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- ・学校図書館専任職員（学校司書）の配置
- ・とよなかブックプラネット事業による支援
- ・「とよなか読書活動支援システム（蔵書管理・情報共有掲示板・授業活用データベース）」の運用
- ・学校、公共図書館、教育センター間の週二回の物流便の運行
- ・学校図書館支援ライブラリーにおける調べ学習サポートパックや教員用図書の貸出

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・市の教育研究会（市教研）学校図書館部会
各学校の取り組みの交流や情報交換を計画的に行っている。
- ・とよなかブックプラネット事業推進委員会
学校図書館と公共図書館の連携強化を図る。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・学校図書館利用指導（オリエンテーション）
- ・読書活動支援（読み聞かせ、ブックトーク等）
- ・図書館資料の利用指導
- ・調べ学習等の授業支援と関連資料の提供
- ・教員向け資料の案内と提供
- ・読書週間などの計画・運営・支援

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・2013年4月より蔵書管理を電算化。
全小中各校と公共図書館がオンラインで繋がり相互貸借可能。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・読書振興課が学校図書館教育の支援として、学校図書館システムの管理や市全体の図書館教育に関する行事や研修を実施
- ・図書館の達人への道（参集せずにできる取組）
- ・読書活動フォーラム（作家さんを招いて）

6. コロナウイルス感染症対策について

○行政の支援内容

コロナ対策についての具体例等の情報提供、人的支援

○学校独自の対策

手指消毒の徹底、マスク着用、本の返却棚を増設し、消毒後に所定の本棚に収納、受付カウンターに並ぶ際児童同士の距離を一定に保つため床に足形ステッカーを貼る、座席が向かい合わせにならないように椅子を配置、絨毯を撤去し図書館内での読み聞かせはせず、教室で行う（半数は貸し借りを図書館で行い、半数は教室で担任が読み聞かせ。途中交代する。）、絵本をスライドにし音声を入れ大型モニターで読み聞かせ、教室で絵本を大型モニターに映して読み聞かせ

7. タブレット端末の導入について

（現状と問題点）

- ・各小中学校にて一人一台導入済み（LTEモデル）
- ・タブレット端末の活用方法や実際の指導について各校の取り組み情報交換

<池田市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- ・各校1名の専任司書の配置（市費アルバイト）
- ・勤務時間内における研修会参加への配慮
- ・市立図書館との連携
（団体貸し出し、年間10回の研修会）
（視覚障害者用図書等の学校への貸し出し）
マルチメディア DAISY 図書・点字図書等
- ・市内通送便の運行

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・池田市教育研究会（市立小・中学校教員が参加）
図書部会で各学校の年間計画や情報交換を行っている。図書館司書の参加も可能

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・学校図書館のオリエンテーション
- ・調べ学習等の授業支援と関連資料の提供
- ・読書週間やボランティア団体（おはなし飛行船など）の読み聞かせを設定し、本に関する興味関心を高めている。
⇒ コロナ禍で出来ていない学校あり
- ・図書館だよりの発行
- ・学校図書館司書による読み聞かせ等

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・図書台帳のコンピュータ化が完了。
- ・市立図書館を含む蔵書のPC検索・貸し出し。

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・図書館システムによる市内学校図書館と公共図書館の蔵書情報の共有と相互貸借。
- ・小・中学校図書館における、互いの図書館を紹介するポスターや図書館だよりの掲示。

6. コロナウイルス感染症対策について

○行政からの支援内容

⇒ 特になし。各校の状況共有のみ。

○学校独自

⇒ カウンターに透明シートを張る。
入室前に手指消毒。人数制限。
館内が密にならないような工夫として、一方通行にするなど
貸出しの制限（3日間日干し等）

7. タブレット端末導入（現状と課題）

○令和2年度に、一人1台タブレット貸与完了。
市教委から使用上のルールについて、紙媒体を保護者、児童生徒に配布。
活用については学校独自。情報担当や学力向上担当者会議で取り組みの情報共有。
臨時休校や濃厚接触者、感染予防で欠席の生徒や児童が家庭で活用できるように、毎日の持ち帰りを実施している学校多数あり。

<箕面市>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、行政からのサポートについて

- ・学校図書館司書は小中学校とも全校配置

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・教職員自主研究組織である箕面市教育研究会の「**学校図書館部会**」に各校の司書教諭、図書館教育担当者、学校図書館司書が入り、月1回部会を開催している。

今年度のテーマは「読書を楽しむ子どもを育てるために」である

- ・学校図書館司書は、毎月「司書連絡会」で交流や研修を実施している
- ・学校図書館司書は、2か月に1回「司書連携学習会」で市立図書館司書と交流や研修を実施している。

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・学校図書館のオリエンテーション
- ・読書活動支援（朝の読書、読み聞かせ、ブックトークなど）
- ・調べ学習などの授業支援と関連資料の提供
- ・教員向け資料の案内と提供
- ・読書週間などの計画・運営
- ・『**箕面・世界子どもの本アカデミー賞**』の取組

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・コンピュータ管理

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・市内の全小中学校図書館間で、相互貸借及び、資料提供が充実している。
（ワークシート共有、連絡会）
- ・市立図書館との連携により配本サービスが充実している。
（相互返却サービス（試行）市立図書館で借りた図書を学校図書館で返却できる等）

6. コロナウイルス感染症対策について

①行政の支援内容

特になし。

②学校独自の対策

貸出返却の際の密を避けるルールづくり
利用時間を分散させる
図書の消毒
受付カウンターにシールドを張る、
手指消毒の徹底、マスク着用

せ、調べ学習、本の処方箋、うちどく、ビブ
リオバトル、ブックトーク、ブックスタンプ
ラリー、本のPOP作り、シリーズ読書、ポ
スターセッションなど)

- ・地域読み聞かせグループとの連携

7. タブレット端末の導入について

(現状と問題点)

- ・各小中学校にて一人一台導入
- ・家庭への持ち帰りの規定を定める
- ・破損、故障の際の補償が課題

<豊能町>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、 行政からのサポートについて

- ・豊能町内小中学校に学校司書1名(町費)を
配置(勤務時間内における研修会参加への配慮
あり)
- ・町立図書館との連携

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・学校図書館協議会
- 第1回 総会、活動計画、各校の交流
読書感想文コンクールについて
- 第2回 研修「読書感想文の書き方」
読書感想文の審査会(府・町)
- 第3回 令和4年度の総括
各校の取組みの交流
来年度の活動予定
- ・平成30年度から、学校図書館司書会を開催

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・学校図書館司書との連携
- ・読書の日の推進活動
- ・朝の読書活動
- ・読書指導
- ・学級文庫
- ・図書館だよりの発行
- ・委員会活動(紙芝居、読書推進ポスターの作成
など)
- ・各学年や教科との連携(本の紹介・読み聞か

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・貸し出しカードによる把握

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

《本年度の主な特徴的な活動》

- ・うちどく推進
- ・町立図書館でのポップ展示

6. コロナウイルス感染症対策について

- ①行政の支援内容
 - ・書籍消毒機の購入・設置(各学校)
- ②学校独自の対策
受付カウンターにシールドを張る、手指消毒
の徹底、マスク着用、本の返却棚を増設し、
消毒後に所定の本棚に収納、読み聞かせは自
教室で行う

7. タブレット端末の導入について

(現状と問題点)

- ・調べ学習などに活用。その際に、本で調べた
こととの違いを比べるなど行っている。
- ・通信環境が不安定

<能勢町>

1. 各市町村の学校図書館に関する具体的方策や、 行政からのサポートについて

- ・小中合同の学校図書室に学校司書1名の配置
月火木金 7:45~16:45
水 7:45~13:00
勤務時間内の研修への参加の配慮あり
- ・能勢町生涯学習センター図書室との連携
【内容】 町立図書館との連携
団体貸出
週一回の通送便

2. 学校図書館関係の組織の形態と活動について

- ・合同会議（学期に一回）を開催

3. 各市町村の学校図書館の具体的な活動例

- ・朝の読書 ・読書指導 ・調べ学習
- ・図書の時間 小1～4年生…毎週、
小5～6年生…隔週
中学生…学期に2～3回
- ・「図書の時間」に学校司書が読み聞かせや朗読、ブックトークを行う
- ・国語単元と並行した読書活動や新聞作り、POP作り、作品の展示
- ・館内外に本を紹介するための展示多数
- ・学級文庫として各クラスに長期貸出
小学生…クラス人数分
中学生…20～30冊
- ・図書室だより「ふむふむ」（小学校）
「Boooooook」（中学校）
小中へそれぞれ月1回発行
- ・新着図書案内「読め～る」（小学校）
「hondarake」（中学校）
小中へそれぞれその都度発行
- ・図書委員会活動（小学校・中学校とも）での本の紹介、ポスター掲示、しおり配布 等
- ・親子貸出（うちどく貸出）実施
- ・読書ノートの活用（小学生）
- ・読書感想文の校内コンクール

4. 各学校図書館の蔵書管理方法について

- ・コンピュータ管理による貸出・返却・予約

5. 学校図書館に関して、特徴的なこと

- ・H28年4月に小・中学校連携で開校したことに伴い、図書室も「情報・学習センター」として、小中合同で開館
- ・地域の読み聞かせグループ「声の宅配便」との連携（学期に一度のお話を小学校全クラスで行っている。）
- ・町の生涯学習センター図書室の出前貸出
＝らくだ図書館（毎月第2金曜日）
- ・学校にない本は、町にあれば児童・生徒が学校で借りることができ、学校で返却できる。
（週1回の通送便あり）

- ・学校にない本で、町にないが府内図書館にあれば、町を通して相互貸借で借り受け、児童・生徒に提供できる（ただし貸出日数に制限有り）。
- ・放課後アフタースクールや、長期休みの子どもの居場所づくり事業等で学校図書室を利用したり、町の司書の講座に参加する時間がある。
- ・Web本棚設置。いつでもどこでも学校の新着図書が閲覧できるように整備。
- ・中学生向けに年5回雑誌購入（2誌×5回）

6. コロナウイルス感染症対策について

①行政の支援内容

- ・館内テーブル、イスの消毒

②学校独自の対策

- ・入室退室時の手指消毒の徹底、マスク着用
- ・読み聞かせ、読書等の活動時に児童間に一定の距離を保つ座席の工夫。
- ・読み聞かせ時は放送機器を活用。
- ・カウンター前は並ぶ間隔を空けるための印をつけている。
- ・カウンターにアクリル板を設置

7. タブレット端末の導入について

（現状と問題点）

- ・小学校2年生から中学校3年生までは一人一台導入済み。小学校1年生は、学年ごとに共用。
- ・Wi-Fi等の通信状況が各家庭によって異なるため、帰宅後の学校からの課題設定に工夫が必要。
- ・授業での運用の際に機器の不具合が生じている。今後、学校や家庭で運用を進めていく中で、同様のことや故障の際の補償等の対応が予想される。